



神奈川県  
環境科学センター

令和3年版（2021）

神奈川県環境科学センター

年

報

第53号

令和4年3月

## 巻頭言

### 年報の発行によせて

所長 長谷川 陽一

2021年（令和3年）は、横浜市二俣川にあった公害センターが、1991年（平成3年）4月に平塚市四之宮に移転し、新たに環境科学センターとして開設されてから、ちょうど30年を迎える年となりました。

当時の環境問題の状況を、1991年度版かながわ環境白書で振り返ると、まず冒頭の長洲知事署名の「はじめに」では、「オゾン層の破壊や地球の温暖化、酸性雨など、地域・国境の枠を越えた地球規模の問題から自動車交通公害、生活排水やゴミ問題まで、（略）課題はたくさんあります。」「産業構造や社会システム、ライフスタイルを変え、「リサイクル社会」とでもいうべき省資源・省エネルギー型社会を実現していくことがぜひとも必要です。」などの記載があります。

当センターが設立された1991年は、まさに、今私たちが直面している地球温暖化対策や循環型社会の構築などの課題が、注目され始めた頃といえます。それから30年が経過し、改善された（に向かっている）課題もあります。例えば、当時、大気中の窒素酸化物の環境基準が県内全局で達成されることを予想していた人はほぼいなかったでしょう。しかし、地球温暖化対策など、更なる取組が必要な課題や、マイクロプラスチック問題など新たに顕在化した課題など、解決すべき問題は山積みです。当センターとしても、これらの問題解決に向け、国、他の自治体の環境研究所や大学などとも連携し、引き続き研究に取り組んでいきます。

また、当時は、環境学習、環境教育の重要性が取り上げられ始めた頃でもあります。先ほどの1991年度版環境白書では、「1991年4月に開設された「環境科学センター」では、環境学習室を設け、ビデオ・コンピューター・スライド等の映像（略）など、県民だれでもが気軽に学べる環境学習施設としての機能を備え、事業を進めている。」とあります。

当センターでは、この30年、県民の方々を対象とした講座、イベントの開催や職員を学校等に派遣する出前講座などを実施するほか、地域や学校等で環境学習の指導者として活躍されている「環境学習リーダー」の養成など、幅広く環境学習に関する業務を進めてきました。

それが、2020年以降、新型コロナウイルス感染症対策のため、対面で行う講座やイベン

トを実施することが困難な状況になりました。一方、社会全体で、テレワークやリモート会議などが普及し、神奈川県庁でも、職員が自宅等で、パソコンと専用の回線を使って仕事をする場面が一気に増えました。当センターでも、このような新たに普及した技術を用いて、これまで対面で実施してきた発表会や講座等をオンラインで行うことにチャレンジしました。

まずは、年度当初に実施する、新たに環境系の職務を担当する職員を対象とした職員研修を、県庁内の回線を用いて、オンラインで開催しました。これまでは、受講する職員も講師をする職員も、環境科学センターに集合して行っていたものが、各職場で、場合によっては自宅で参加することで、移動のための時間を別の業務に使うことができるようになりました。一方で、質疑応答などの場面では、オンラインのため、発言しにくいといったデメリットもありました。今後、工夫しなければいけない点だと思います。

また、外部の方を対象とした「業績発表会」や「環境学習リーダー養成講座」などはZoomによるオンライン開催で実施しました。これまで、平日の昼の時間帯に会場まで足を運ぶことが難しかった方々にも参加いただけた、というメリットも新たに発見し、今後の環境学習のあり方を考える上で、大きな成果を上げました。

地域における気候変動影響や適応に関する情報の収集・提供等の拠点として、2019年4月に当センター内に設立された「神奈川県気候変動適応センター」の取組は着実に進んでおり、マイクロプラスチックや環境DNAなど、最近注目を浴びているテーマについても、研究課題として取り組んでいるところです。一方、2020～2021年には、三浦半島での度重なる異臭の発生が大きな話題となり、当センターは、ガスの採取方法に関する技術支援や、採取されたガスの分析、当日の風向・風速データ等を用いた解析などを行いました。残念ながら発生源の特定には至らなかったものの、当センターのもつ技術を活用して、「悪臭」という昔からある課題に対して、物質の特定やある程度の原因の推定を行うことができました。

当センターでは、今後も、これまで蓄積した技術、ノウハウをしっかりと継承していくとともに、新たな課題にも適応できるよう最新の知識、情報、技術を取り入れ、地域の環境研究所として、様々な環境課題の解決を図っていきたいと考えていますので、御協力をお願いいたします。

# 目 次

|         |                |    |
|---------|----------------|----|
| 1       | 沿 革            | 1  |
| 2       | 運営概要           | 2  |
| 2. 1    | 所在地            | 2  |
| 2. 2    | 敷地及び建物         | 2  |
| 2. 3    | 環境学習施設         | 2  |
| 2. 4    | 環境常時監視施設       | 2  |
| 2. 5    | 主要検査・研究機器      | 2  |
| 2. 6    | 組織及び業務内容       | 3  |
| 2. 7    | 職員配置数          | 3  |
| 2. 8    | 予算執行状況         | 4  |
| 2. 8. 1 | 令和2年度歳入歳出決算額   | 4  |
| 2. 8. 2 | 年度別歳出決算額       | 4  |
| 2. 9    | 環境安全管理協議会      | 5  |
| 3       | 事業概要           | 6  |
| 3. 1    | 環境情報部環境活動推進課   | 6  |
| 3. 1. 1 | 企画調整業務         | 6  |
| 3. 1. 2 | 環境学習業務         | 17 |
| 3. 1. 3 | 神奈川県気候変動適応センター | 18 |
| 3. 2    | 環境情報部環境監視情報課   | 19 |
| 3. 2. 1 | 環境監視業務         | 19 |
| 3. 2. 2 | 環境情報の管理・提供業務   | 24 |
| 3. 2. 3 | 行政関連の調査等の業務    | 25 |
| 3. 2. 4 | その他業務          | 26 |
| 3. 3    | 調査研究部          | 29 |
| 3. 3. 1 | 調査研究業務         | 29 |
| 3. 3. 2 | 環境監視業務         | 36 |
| 3. 3. 3 | 行政関連の調査等の業務    | 37 |